

学力調査等の状況	
<p>令和4年度の調査では算数・理科で全国平均を上回り、都の平均と同程度の結果であった。国語は全国・都の平均を下回った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国語:言葉の特徴や使い方に関する事項、我が国の言語文化に関する事項で全国・都の平均よりも5ポイント近く下回った。 ・算数:意識調査の結果から、算数の学習に肯定的に取り組む姿勢が見られ、思考・判断・表現の値は全国平均よりも5ポイントほど高い。一方、図形、変化と関係に関する知識・技能が、全国平均よりも4ポイントほど低い。 ・理科:ほとんどの領域で全国平均を2〜3ポイントほど上回り、都の平均と同程度であった。生命を柱とする領域では、都の平均より3ポイントほど低い。 	

見えてきた課題	
<ul style="list-style-type: none"> ・各教科で知識・技能の習得が十分ではない。そのため、話や文章を理解して問題を解くことや、既習事項(図形の公式・前学年までの領域のキーワードなど)と関連付けて考えることが難しい。 ・各教科での知識・技能を定着させるために、児童同士の学び合いの時間、視点を明確にした振り返りの時間等の一層の拡充を図る必要がある。 ・目的に応じてグラフや表などの複数資料を選択する経験が不足している。 	

授業をデザインする8つの取組について	
ICT機器の活用	意見の発表や集約をしたり、協働的な学びを進めたりするために、Chromrbookやデジタル教科書を活用する。
価値ある対話の共有	一人ひとりの考えを全体で共有し、児童の発言を価値付け、学習課題を理解したり、解決したりする。
振り返りの設定	自分の言葉で学習について自己評価させ、次時の学習の見直しをもたせる。

各教科における課題を改善するための指導の重点				
	年度当初に設定した重点	低学年	中学年	高学年
国語科	<ul style="list-style-type: none"> ○相手意識や目的意識を明確にさせる。 ○単元のゴールモデルを示し、学習の見直しをもたせる。 ○単元を振り返り、自分の学びや変容を自覚させる。 ○自分の思いや考えを言葉で表現させる。 ○既習事項と関連付けて自分の考えをもたせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○単元のゴールを示し、学習計画を立てることで見直しをもたせる。 ○自分の思いや考えを表現させるために、短作文を多く書かせる。 ○年度当初はモデルを示し、徐々に自分の言葉でかけるように指導する。 ○並行読書を行い、読書に親しむ。 ○音読を毎時間行う。文章を文節で言葉をとらえられるようにす 	<ul style="list-style-type: none"> ○各段落の内容を整理するために、内容に合った小見出しを付けるなどの活動を取り入れる。 ○自分の一番伝えたいことが読み手に伝わるような文章を書くために、「はじめ・中・終わり」の構成に沿って文章を書かせる。 ○新出語句の意味を丁寧に解説したり、読み聞かせをしたりする中で語彙を増やしていく。 ○朝学習や家庭学習、小テストを効果的に実施して漢字の定着を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○物語や説明文で、筆者の意図を叙述から読み取る活動を設ける。また、事実と意見を判別する学習も意図的に設ける。 ○読み手に伝わる分かりやすい文章を書くために、「はじめ・中・終わり」の構成を基本として、経験や自分の考えを交えた文章を書かせたり、スプレッドシート等を用いて友達とお互いの文章を読み合わせたりさせる。 ○新出語句の意味や同意語、言語文化に関することを調べる時間を設け、知識・技能を高めていく。 ○朝学習や家庭学習の時間を効果的に活用して漢字の定着を図る。
社会科	<ul style="list-style-type: none"> ○施設の見学を行う体験的学習や外部人材を活用した学習を積極的に取り入れたり、資料や写真を活用したりして、問題解決への意欲を伸ばす工夫を図る。 ○統計、写真などの資料の基本的な見方、読み取りを重点的に指導し、様々な資料を読み取る活動を通して、これらの技能を教科に限らず活用できる力の育成を図る。 	<p>(中学年からのスタートに向けて現時点で意識する指導の重点)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○町探検において、公共施設や店などの見学や、そこで働く人々へのインタビューなどを通して、社会的な活動への理解を深める。 	<ul style="list-style-type: none"> ○実生活での経験や、実際に見学して見たり聞いたりしたことを言語化していくことで思考を深める。 ○見学などのまとめをする前に、自分が記事にしたいことを精査することで、どのようなことを学べたかを意識づけさせる。 ○地図記号や方角などを通年で活用することで身に付けさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○グラフやデータ、写真など複数の資料を比較・検討しながら、共通点や差異を見付け、自分の言葉でまとめさせる。 ○実際に体験できない事柄を児童にとって身近な事象・数・時代に置き換えて説明させたり、振り返りを書かせたりする。 ○スライド等を使って、教科書や資料集の内容をまとめ、相手に説明する時間を設ける。
算数科	<ul style="list-style-type: none"> ○東京ベーシックドリルやプリント等の活用を通して、基礎的・基本的な知識と技能を確実に身に付けさせる。 ○具体物や表、グラフ等を活用して、自ら解決する力・思考力・表現力を向上させる。 ○日常生活と結び付ける具体的な活動を行ったり、既習事項を踏まえた学習を行ったりして、数量や図形についての感覚を豊かにさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○たし算・ひき算・かけ算などの計算カードを授業の中で扱い、ナビマで習熟できるよう繰り返し計算練習を行う。 ○具体物から半具体物、そして数・記号などの指導を徹底し、体験的な活動を取り入れながら理解を深めさせる。 ○日常生活の中で算数的な活動を想起させ文章題を作らせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○授業の最初や最後にふりかえりや練習問題に取り組む時間を確保したり、適宜プリント・ナビマなどを活用したりして、基礎・基本の確実な定着を図る。 ○図・式・言葉を使って自分の考えを表す活動を取り入れることで、自力解決のための思考力・表現力を育む。 ○自分の理解度に応じて、自分に適した習熟度別コースを選択できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ベーシックドリルなどナビマ、正しく演算決定ができるような文章題のプリントを活用し、基礎的な計算力・学習内容の定着を図る。 ○学習の習熟度に合わせた、指導計画を立て、教材や展開を工夫した授業を行う。 ○協働的な学習や既習事項の応用といった論理的な学習を取り入れる。
理科	<ul style="list-style-type: none"> ○科学的な言葉や概念を使用して考えたり説明したりする活動を充実させ、観察実験の過程・結果を的確に表現する能力の育成を図る。 ○基礎的・基本的な知識・技能の定着を図る。(科学的な知識・理解の定着を目指す) 	<p>(中学年からのスタートに向けて現時点で意識する指導の重点)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○年間を通して動植物を観察し飼育するような体験的な活動を多く行う。 ○実体験をもとに学習を深めていくように、四季を通した自然とのふれあいを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○低学年の生活科で培った基礎を元に、興味・関心をもって体験的な実験・観察をしていく。また、それが実践できるように授業を計画し展開していく。 ○実験・観察の前に、児童同士で自分の予想とそう考えた理由を交流する時間をとるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○事実認識を丁寧にし、自分の言葉で書かせることで、子供の理解をより深め、定着を図る。 ○五感を活用した学習を行うことで、表面上の理解ではなく生活に生かせるような、生きた力につなげていく。 ○理科独特の用語を使いながら自分の考えをまとめる活動を行うことで、用語や概念の獲得を図る。

⑮-2授業改善推進プラン(中間改善計画)

各教科における課題を改善するための指導の重点				
	年度当初に設定した重点	低学年	中学年	高学年
生活科	<p>○1学年は、4月の「スタートプログラム」を行い、幼稚園・保育園の生活からのスムーズな移行をさせる。</p> <p>○1年間を通して楽しく遊びながら季節の移り変わりを感じさせ、探究心や問題解決の素地を養う。</p> <p>○2学年は、観察したことをワークシートにまとめたり、友達の発表を聞いたりしながら、生き物に興味・関心を持たせる。</p>	<p>○学校生活の流れを知り、学校探検などを通して、学校での生活や学習への意欲を高める。</p> <p>○校庭や公園の自然に触れ、遊びを通して自然の良さや、四季の移り変わりに気付くことができるようにする。</p> <p>○五感を使って観察し気付いたことを絵や文章で表現できるようにする。校庭や公園の生き物を探したり飼育をしたりする体験をさせる。</p>		
音楽科	<p>○リコーダーや鍵盤ハーモニカの演奏技能を身につけさせ、他の楽器の演奏意欲をもたせる。</p> <p>○リズムやハーモニーを楽しみながら歌えるよう、自然で無理のない歌い方を身につけさせる。</p>	<p>○鍵盤ハーモニカの基本的な奏法を身につけると共に、手持ちの打楽器等を経験させる。</p> <p>○楽しく歌い、友達と声を合わせる楽しさを体験させる。</p>	<p>○リコーダーの基本的な奏法を身につけさせ、音楽室の様々な楽器を経験させる。</p> <p>○友達と声を合わせることに加え、曲の特徴や良さを生かしてリズムやハーモニーを楽しむことができるようにする。</p>	<p>○楽器の基本的な奏法の定着を図り、グループ合奏、クラス合奏、学年合奏と友達と一つのものをつくり上げる達成感を味わわせる。</p> <p>○自然で無理のない歌い方を身につけ、二部合唱等を通して曲の特徴や良さを自分で工夫して表現できるようにする。</p>
図工科	<p>○課題解決に向かう姿勢・意欲を育てる。</p> <p>○豊かな発想をし、手や全体を十分に働かせ、表し方を工夫する力の育成を図る。</p> <p>○身近にある作品などからよさや面白さを感じ取る力の育成を図る。</p>	<p>○導入の発問を工夫し、楽しく発想したり、「やってみよう」という意欲がもたれるようにする。</p> <p>○材料や用具を安全に正しく使えるように、模範の動きをスクリーンを活用して分かりやすく説明する。</p> <p>○活動中に互いの作品を見合う場を設定して、豊かな発想を促したり、自分の作品に生かしたりできるようにする。</p>	<p>○学習のめあてや活動の流れを視覚化し見通しをもたせ、振り返りを重点的に行うことで児童一人一人の学習状況を見取り、個に応じた指導・支援を行う。</p> <p>○材料や用具の正しい扱いについて定着を図り、自分の表現に合わせて自ら選択できるようにする。</p> <p>○自分の見方や感じ方を深めるために、作品のよさや特徴を捉え、友達と表現の意図を伝え合う対話的な活動を取り入れる。</p>	<p>○既習学習を活かしなが、題材から発想を広げ、材料の使い方や表現方法を自分で考えて計画するなど、主体的に取り組めるようにする。</p> <p>○材料や用具の扱いに慣れさせるとともに、それぞれの特性を理解して活用したり、自己の表現に役立てたりできるようにする。</p> <p>○自分の見方や感じ方を深めるために、作品のよさや特徴を捉え、友達と表現の意図を伝え合う対話的な活動を取り入れる。</p>
家庭科	<p>○日常生活に必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身につける。</p> <p>○様々な解決方法を考え、実践を評価・改善し、考えたことを表現するなど、課題を解決する力を養う。</p> <p>○家庭生活を大切にすることを育み、家族や地域の人々との関わりを考え、家族の一員として、生活をよりよくしようと工夫する実践的な態度を養う。</p>			<p>○日常生活に必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能をデジタル教材を参考に身につける。</p> <p>○様々な解決方法を考え、実践を評価・改善し、考えたことを表現するなど、課題を解決する力を養う。</p> <p>○家庭生活を大切にすることを育み、家族や地域の人々との関わりを考え、家族の一員として、生活をよりよくしようと工夫する実践的な態度を養う。</p>
体育科	<p>○運動の動きを動画で撮影し、考えたことなどを伝える活動を取り入れる。</p> <p>○運動の動きの見本を動画で確認させることで、運動の理解を高める。</p> <p>○自身で何度も取り組んだり、行い方を試行錯誤したりしながら、運動に親しむ心情を育てる。</p>	<p>○運動遊びの中で、上手な友達の動きを見て、ポイントを確認していく。</p> <p>○教員の動きや友達の良い動きを見て、運動遊びの理解を高める。</p> <p>○遊びの中で、何度も取り組んで、運動に親しむ心情を育てる。</p> <p>○休み時間に外遊びを促し、体力向上を図る。</p>	<p>○技能のポイントを示し、チームで話し合える時間では、良いところや課題に気付けるようにする。</p> <p>○運動の動きの見本を動画で確認したり、学習カードを活用したりして動きのポイントを理解する。</p> <p>○自身で何度も取り組んだり、行い方を試行錯誤したりしながら、体を動かす楽しさを知り、運動に親しむ態度を育てる。</p>	<p>○児童によって体力に差があるので、活動時間を多くして、体力向上を図る。</p> <p>○クロムブックを活用し、自分や友達の運動の動きをよく観察させたり客観的にとらえさせたりして、運動の理解を高める。</p> <p>○児童が進んで新しい技にチャレンジしたり、より上手に技ができるようにしたりできるように、選択できる場を多くしたり、励ます声をかけたりする。</p>
外国語科	<p>○ALTとのやりとりにおいて、状況説明を行いオールイングリッシュの授業を目指す。</p> <p>○ピクチャーカードを有効に活用し、英語の語彙力を高める。</p> <p>○書く活動においては、お手本や例示により全員が書くことができる状況にする。</p>			<p>○児童が楽しく学習できるように、教科書をベースにしなが、アクティビティを導入する。</p> <p>○児童が発語できる機会を増やす。</p> <p>○新しいセンテンスや語句が出てきたときには、板書をして、目・耳・口と、五感を使って理解できるようにする。</p>

⑮-2授業改善推進プラン(中間改善計画)

各教科における課題を改善するための指導の重点				
	年度当初に設定した重点	低学年	中学年	高学年
総合的な学習の時間	<ul style="list-style-type: none"> ○目的に応じて、地域の人材を有効に登用して、探求的な学習を深めていけるようにする。 ○クロームブックやプロジェクターなどのICT機器を積極的に活用し、はじめに設定した自己の課題を解決するための力を育成する。 	/	<ul style="list-style-type: none"> ○集めた情報から自分の必要なものを取捨選択することを指導する。 ○クロームブックやプロジェクターなどのICT機器を積極的に活用し、課題を解決するために適切な情報を集める方法を指導する。 ○自分の考えを表現するために分かりやすく相手に伝える方法を指導する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○児童が探究できるような課題や過程を設定する。 ○ICTを活用して、自分の考えを表現したり、調べたことを発表したりするのに適した情報収集の仕方を指導する。 ○ICT機器を活用し、自分が調べたことが相手に適切に伝わるような発表方法を指導する。
特別の教科 道徳	<ul style="list-style-type: none"> ○道徳の時間を要として教育活動全体を通じて道徳性を養う。 ○自分の考えたことを基に、書いたり話し合ったりして考えを表現する機会を充実させる。 ○自分と異なる考えに接することで、自分の考えを深めることを図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○学級の実態に合わせて、児童が深く考えられるような主題名を設定する。 ○道徳性を養うために、内容項目に対する振り返りの時間を十分に確保する。 ○児童が考えやすくなるように、問いかけの仕方を工夫したり、ワークシートに書く内容を精査して最小限にする。 ○出た意見を分類するなどして、自分の意見と同じかどうか、目で見て分かるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○児童が自己を見つめ、生き方についての考えを深められるように、内容項目に対する振り返りの時間を十分に確保する。 ○ワークシートに書くことを通して、自分の考えを振り返るようにする。話し合いの時間の確保のため、書く活動の場面を精選する。 ○ペアやグループ、全体というように、学習形態を変化させることにより、他者と考え方を交流できる場を設定する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○児童の実態を加味しながら、道徳の時間などを通して道徳性を養う。 ○ICTを活用しながら、多くの児童が自身の考えを表出できる機会を増やす。 ○グループトークの時間を設けるなど、交流を増やし、多様な考えがあることを知るとともに、自身の考えを深化できるようにする。
特別活動	<ul style="list-style-type: none"> ○自ら気付き、進んで取り組む児童を育む。 ○学校生活の充実を図るために、諸問題を話し合い、主体的に解決する態度を養う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○児童が学級を良くしようと思えるように、肯定的な声掛けをしたり、周りをよく見ている児童を褒めたりする。 ○少人数グループでの話し合いの場を設けることで、自分の意見を表明しやすくする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○学級・学年の活動や行事などから自分たちが取り組むべきことを考え活動するきっかけとする。 ○少人数グループや学級全体など様々な話し合いや活動を行うことで自分の考えを伝えたり、実際に行動する場面を多く設定する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○児童が進んで学級をより良くしようと思えるような活動ができるよう、肯定的な声をかける。 ○よりよい学級や学年、学校全体についてふりかえる時間を確保し、児童が話し合ったり、行動したりできる機会を増やす。
外国語活動・英語活動	<ul style="list-style-type: none"> ○積極的に発話、できるように、変化のある繰り返しで児童を飽きさせずに発話量を確保する。 ○ICT機器を有効に活用し、外国語活動に主体的に取り組もうとする態度を養う。 ○ALTとのやりとりにおいて、状況説明を行いオールイングリッシュの授業を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ALTの先生や友達と楽しみながら、繰り返し発音して英語に触れる機会を確保する。 ○音楽やカードや絵本などを活用しながら、積極的に取り組もうとする態度を養う。 ○ALTの先生の英語を聞きながら、身振り手振りを見て、日本語が少なくなるような授業を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> ○友達と楽しみながら単語や会話に慣れ親しみ、動画やイラストなど視覚的資料を充実させて英語の表現を身につけさせる。 ○ゲームや音楽、アクティビティ等の楽しく活動できる内容を中心とした授業の組み立て、主体的に関わる活動を増やす。 ○ALT・MEPSと連携を図り、たくさん発話し、単語や会話を身につけさせる。 	/